

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------------|----------------|------------|
| 事業所番号 | 3992500102 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 ふるさと自然村 | | |
| 事業所名 | グループホーム いこい | | |
| 所在地 | 高知県高岡郡中土佐町久礼5988番地 | | |
| 自己評価作成日 | 平成29年10月18日 | 評価結果 市町村受理日 | 平成30年1月24日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が出来ることは自分でしてもらい、出来ないこともすぐに手伝うのではなく、本人が出来るような形にし、やりたいことを職員と一緒に考えて、外出や活動、日常的な仕事ができる体制を整えているところです。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kajigokensaaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kihontrue&ji_gyosyoCd=3992500102-00&PrefCd=39&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|--|
| 評価機関名 | 高知県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ |
| 訪問調査日 | 平成29年11月22日 |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して4年目となり、職員同士が様々な提案や工夫を出し合いながら、職員との信頼関係の中で、利用者が安心して生活できるように努めている。立地場所は敷地が広く、騒音もなく、利用者は静かな環境で生活している。

理念として利用者の自己決定を大切に、地域との交流を大切にしながら、利用者が笑顔で穏やかに過ごすことが出来るように支援をし、職員は、自己研鑽に努めながら地域から信頼される事業所を目指して取り組んでいる。

職員は、地域の清掃や行事に参加し、地域住民は、隣接の養護老人ホームと共同で行なう防災訓練や、夏祭りなどに参加している。近くの保育園児とは交流があり、利用者は、園児と一緒に芋の植え付けや芋ほりを楽しんでいる。季節の花見や買い物、外食など外出の機会は、地域との交流の機会として捉えられている。

健康管理においては、協力医療機関の訪問診療や、看護師による健康状態の観察などが定期的に行われ、利用者、家族の安心につながっている。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|------|--|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 利用者、職員がいつでも見えるよう、共有空間、事務所に理念を張り出している。日々のケアの中で、理念に基づいたケアが実践できているかの確認を行っている。 | 地域密着型サービスの意義を踏まえた理念が作成されており、理念に基づいたケアの大切さについて、職員は、職員会議等で機会あるごとに確認し、理念に沿ったケアに努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 事業所から地域の清掃活動等に参加し、地域住民には、事業所防災訓練時に参加してもらっている。利用者は、芋の苗植え、芋掘りを近隣の保育園児、小学生と一緒にしている。 | 地域の海岸清掃、田植期の水路の清掃に職員が参加し、隣接の養護老人ホームと共同で行う防災訓練や夏祭りには、地域住民の参加がある。また、近くの保育園児とは芋の植え付けや芋ほりで交流し、利用者は楽しい時間を過ごしている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 開設から4年目となり、地域にも認知されてきたと考えている。母体法人の事業所と一緒に、月3回、町内3ヶ所で認知症カフェを行っている。 | / | / |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 定期的に会議を開催し、サービスの実施報告、取り組み状況等を報告して、意見をもらい、運営に活かしている。 | 会議内容は利用者の状況、行事、職員体制などの報告を行い、質疑応答を行っている。他の議題は少ない。家族、利用者の参加がなく、昨年度に計画した、家族参加に向けての取り組み目標は達成していない。 | 運営推進会議には、家族、利用者の参加が望ましいので、その実現に向けての方策を検討すると共に、会議内容も事業所の課題等を議題にして、会議の活性化を図ることを期待する。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議時などに、事業所の実情や自治体の実情などについて情報交換を行い、ケアサービスの取り組みに活かしている。困難事例に対しては、行政からの協力が得られた。 | 行政とは、日常的に相談や情報交換できる関係作りができています。運営推進会議では町職員からの情報提供があり、事業所からも利用者の相談や、待機者についての情報交換等を行っている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 併設の母体法人施設と合同で研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は、夜間は施錠しているが、日中は解放している。 | 母体法人としても身体拘束のないケアを重視しており、職員研修を実施している。研修に参加した職員は他職員に伝達し、具体的なケアの確認を行っている。玄関は日中は開放し、外出傾向のある利用者には気配りを行い、また、利用者の尊厳を損なうような言動のないように気をつけている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 職員は、研修などで虐待防止について学んでいる。事業所内の会でケアの方法についても話し合い、必要があれば見直しを行っている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 内部研修などで権利擁護について学んでいる。運営推進会議のときに関係者と意見交換を行い、日常生活自立支援事業や成年後見制度が利用できるようになった。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時には利用者、家族に納得してもらうまで説明をしている。また、利用開始後も疑問があればその都度、説明を行っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 入所時に、第三者委員など相談機関の説明をし、相談機関を見やすい位置に提示し、その都度説明を行っている。また、家族から具体的な要望等があったら、付箋に書いて事務所内に張り出している。 | 利用者については、日々のケアの中で意見や要望を聞くことを心がけている。意見や要望は、職員間で共有し、ケアに反映している。家族とは面会時に、面会の少ない家族には電話で、介護計画に対する要望等を聞くようにしている。 | 家族面会や家族の事業所事業への参加が少ない中で、家族の集まりを作ることは難しいとは思われるが、事業所事業の案内を積極的に行い、少しでも家族が集まり、話し合う場ができることを期待する。 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 日頃から職員の意見を聞き、業務の進め方、計画などに反映させて、職員が共有できるように事務所内に張り出している。 | 職員間、職員と上司の関係はよく、職員会議や毎日のミーティング等で話し合う機会を作っている。職員の提案で献立作り、薬の管理などの役割分担をしている。勤務時間についても、職員の意見を聞いている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員個々の適正を見極め、業務の役割分担を決めて、職員のチーム力が活かせるような勤務体制を心がけている。また、家庭の事情などに応じて勤務シフトを配慮している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修への参加への機会を確保し、支援する体制がある。また、母体法人内で介護技術研修も行っており、職員は参加している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 交流会、自治体主催の勉強会に参加し、サービスの質の向上にむけた取り組みを行っている。また、お互いの事業所を見学に行ったりしている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 生活暦を聞き、本人の思いを知ること努め、本人の不安や抱えている問題に耳を傾けて、在宅時の生活を尊重し、利用者が事業所で安心して過ごせるような関係作りに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族からの視点で見た本人の問題点を聞き、本人、家族にとって調和のとれたサービスを心がけている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入所相談時より、家族や利用者の意見を聞き、介護保険、介護保険外の利用できるサービスを説明して、対応している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員、利用者が共に生活していることを意識し、掃除、洗濯、草引きなどを協力して行っている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 19 | | <p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p> | <p>家族との関係を絶つことなく、家族の役割を大切に、相談と報告をして、共に利用者の思い通りに沿った対応をしている。</p> | | |
| 20 | (8) | <p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p> | <p>入所後も地域とのつながりが切れないよう、友人を事業所に招いて部屋で一緒に過したり、家族で外出に出たりしている。</p> | <p>友人の面会がある利用者、また、近隣施設の友人を定期的に訪問している利用者もいる。職員と買い物に行き、地域住民と話ができる機会もあり、家族や地域とのつながりを大切にして、取り組んでいる。</p> | |
| 21 | | <p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p> | <p>利用者個々の好みを聞き、草引きやレクリエーション等を通じてコミュニケーションが取れるように支援している。</p> | | |
| 22 | | <p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p> | <p>利用者が退所した後も、家族等と情報交換を行っている。亡くなられた場合には、通夜に出席するようにしている。</p> | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | <p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p> | <p>事業所で判断できる限りは、本人の希望、意向に沿った対応が出来るようにし、家族や関係者に話しをして、調整をしている。</p> | <p>日々のケアの中で生活に対する希望や要望を聞くようにしており、聴取した内容は記録に残し、職員間での共有を図り、ケアプランに反映すべき内容の有無を検討している。</p> | |
| 24 | | <p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p> | <p>入所時の情報をもとに、家族やケアマネジャーからも情報提供を受けている。また、再度本人にも話しを聞いて確認している。</p> | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 利用者個々の生活スタイルを把握し、画一的なサービスとならないように取り組んでいる。利用者の言動から、身体機能、精神面の理解、把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人の思いを第一に介護計画を作成し、面会時などに家族の意見も聞いて、反映できるようにしている。また、職員の意見もミーティングで聞き、反映できるように努めている。 | 利用者、家族の思いや意向を踏まえて計画作成者が作成した内容を職員間で検討して、プランを作成している。定期的にモニタリングを行い、プランの実施状況内容を評価し、必要な追加や修正を行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 利用者個々に生活記録を記録して、職員間で情報共有し、介護計画の見直しに活かせるように努めている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人や家族のニーズに合わせて柔軟な対応ができるように、自治体などにも意見を聞いて、運営に反映させている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 小学生、保育園児などとの交流を持ち、同一敷地内併設施設での行事にも参加している。運営推進会議でも、利用できる地域資源についての話し合いを行っている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 家族、本人の希望に沿った受診をしている。家族を通じて病院との情報交換を行ったり、認知症の専門医にかかる際には、職員が対応している。 | 家族、利用者の希望を優先している。内科的な治療は、ほぼ全員協力医療機関からの月2回の訪問診療を利用している。受診結果は家族に報告し、また、週1回は隣接する養護老人ホームの看護師による健康相談の機会がある。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師と連携を取り、お互いに相談しながら利用者の健康管理に努めている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入退院時には病院と連絡を取り合い、情報交換を行うことで、お互いに相談合っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 家族、本人に看取りの指針をもとに、事業所で出来ること出来ないことの説明を行い、協力病院と連携する体制を計画している。 | 看取りに関する指針を入所時に家族に説明し、事業所にできる範囲のことを伝えている。開設して4年目でまだ看取りの経験がなく、職員の取組み意識も不十分なので、今後学習の機会を作り理解を深めるとともに、協力医療機関との連携体制を整えていくことを考えている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 職員は、内部研修、外部研修に参加して緊急時に対応できるようにしている。また、緊急時のマニュアルを見える所に置いている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 火災訓練を年2回、地震津波避難訓練を年3回行っている。同一敷地内併設施設が災害時の避難所になっているため、地震津波避難訓練の際は地域住民にも参加してもらっている。 | 隣接する養護老人ホームと共同で火災訓練を年2回、地震津波訓練を年3回実施している。養護老人ホームが災害時の避難先となっており、昼夜を想定して訓練を行なっている。訓練には地域住民にも呼びかけ、参加を得ている。非常用食材等は、養護老人ホームで管理している。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者が自信を無くすような声掛けはせず、人権を尊重した対応を心がけている。 | 暖かい思いやりの心で利用者に接することを理念に掲げており、職員は、トイレ誘導時、入浴時などのケア実施時の言葉かけに気をつけている。利用者のプライバシーの保護についても、職員間で徹底されている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 外出などは利用者の希望を優先し、日常生活の中でも、利用者の意思を尊重して決定している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | その人のペースや生活リズムを尊重し、職員のペースではなく、利用者一人ひとりの希望に沿って生活できるように、支援体制を整えている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 更衣時には、本人の希望で好きなものを選んで着ている。また、行きつけの理容室を利用する利用者もいる。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者に手伝ってもらいながら食事作りや片づけを行い、利用者に希望を聞きながら、メニューづくりを行っている。 | 献立担当職員が利用者の希望を聞いて献立を作り、食材を購入している。利用者は米とぎ、皮むき、食器洗いなどを行っている。職員も利用者と同じ食事をとっている。利用者は、職員や他の利用者と話しながら、楽しく食事している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 利用者個々の食事、水分摂取量を記録し、管理している。食事の状態も、個々の摂取状態を把握して食べやすい形態にしたり、食べる量を見極めて提供している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後に実施し、自分で出来る利用者ばかりなので、声掛けをして歯磨きを行っている。入れ歯を洗浄液につけることは、職員が行っている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、なるべく失敗ないようにトイレ誘導を行っている。 | トイレでの排泄を基本にしている。排泄自立している利用者が多く、布パンツ利用者は3名いる。時間誘導している利用者は3名いるが、排泄パターンを把握して、失敗の無いように支援している。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 乳製品や繊維の多い食材を取り入れたり、運動等をして、便秘の予防に取り組んでいる。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | ある程度入浴時間は決まっているが、本人のその日の気分に合わせて入浴できるよう、臨機応変に対応している。 | 入浴時間や入浴回数は利用者の希望を優先し、毎日の入浴希望者はいない。週2回から3回の入浴となっている。同性介助を希望する利用者、見守りだけでいい利用者、能力や希望にそった支援をしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 本人の希望に応じて、横になりたいときには横になれるように支援している。冬場には、眠る前にあめ湯を飲んで体を温めている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬局で出される内服薬に関する書類を看護日誌に綴じている。また、主治医、看護師との情報共有を図り、関係書籍も利用して、内服薬の理解に努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 草引きや食器洗いや簡単な調理など、本人の出来ること、やりたいことを基本に、日々の生活を支援している。外出も、利用者の希望を取り入れて行っている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 家族の協力を得ながら、週に3回程度は外出をする体制を整えつつある。本人の希望に合わせて、外出出来るようにしている。 | 敷地内は広く、利用者は、天気のよい日は自由に散歩をしている。月1回は車での外出の機会を作り、買い物や外食、季節の花見に出かけている。家族と一緒に、買い物や食事にてかける利用者もいる。また、敷地内の畑で芋を植え、園児と芋ほりを楽しんでいる。 | 散歩を日常的な支援プランに取り入れること、事業所行事は積極的に家族案内を行い、車での外出時には、家族の協力参加での実施ができることを期待する。 |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 家族が了承する範囲内で、小遣いとして事業所が預かり、自分の意志で使えるように支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人の希望で電話をしたり、手紙を出したり出来るように支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者に合わせて、室温や照明をコントロールしている。季節に合わせた花を活けたり、飾り付けを行っている。 | 居間兼食堂は明るく、山や田畑、人家が見え、騒音もなく静かな環境で生活ができている。開所して4年で建物も新しく、共用スペースは清潔に管理されている。壁には12月のクリスマスに向けての飾り付けが始まっていた。玄関には季節の花が飾られている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共有スペースにはソファ、テーブルがあり、利用者は思い思いの場所に座って会話を楽しんでいる。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家族と相談しながら、本人が過ごしやすいように使い慣れたものを持って来たり、新しく購入したりしてもらっている。 | 入所時には、馴染みの品の持参を勧めている。部屋には孫やひ孫の家族写真があり、使い慣れた椅子や洋服掛け、また、仏壇がある部屋もあり、それぞれ個性があって、居心地よく過ごせている。どの部屋からも外の景色が見え、四季の変化を感じることができる。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレが分かりやすいように、大きく便所と書いている。目の見えにくい利用者用に、気を付けて歩いてもらいたい場所にはテープを張って、見やすくしている。 | | |

ユニット名:

| V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) | | | | | | | |
|---------------------------|--|-----------------------|----------------|----|---|-----------------------|----------------|
| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいの | | | | 2. 家族の2/3くらいと |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいの | | | | 3. 家族の1/3くらいと |
| | | | 4. ほとんど掴んでいない | | | | 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある | 64 | グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように |
| | | | 2. 数日に1回程度ある | | | | 2. 数日に1回程度 |
| | | | 3. たまにある | | | | 3. たまに |
| | | | 4. ほとんどない | | | | 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが | | | | 2. 少しずつ増えている |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが | | | | 3. あまり増えていない |
| | | | 4. ほとんどいない | | | | 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが | | | | 2. 職員の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが | | | | 3. 職員の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない | | | | 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが | | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが | | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない | | | | 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが | | | | 2. 家族等の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが | | | | 3. 家族等の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない | | | | 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が | | | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが | | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが | | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない | | | | 4. ほとんどいない |